2014～2016年度　中期経営計画

2014年5月14日

住友大阪セメント株式会社

1. 前経営計画(2012～2013年度)レビュー

前経営計画では、セメント国内需要は、4,400万トンと想定。

＜基本方針＞
- 「コスト競争力の回復による企業体質の強化」
- 「将来に対する基盤作り」

セメント事業　震災復興に対する社会的責務の遂行
コスト削減と最適生産・販売・物流体制の検討
再投資可能な事業とするための適正価格への値上げ

非セメント事業　事業製品の選択と集中
将来を見据えた製品構成・開発と資源の集中化

震災復興に加え、政権交代以降の緊急経済対策の実施で官需が増加。
大都市圏を中心に再開発等、民需も活発化。需要は上振し、4,771万トンに。
結果として、目標利益を達成し、最高益を更新した。

(単位:億円)

売上高

	13年度実績	13年度目標値	達成率
セメント	1,832	1,788	102%
非セメント	519	512	101%
合計	2,351	2,300	102%

損益

セメント	166	131	127%
非セメント	49	39	127%
営業利益計	215	170	127%
ROA	7.0%	5.4%	129%

2. 2014～2016年度　中期経営計画概要

1)経営環境

日本経済は、「アベノミクス」効果の浸透や、輸出の持ち直しにより、景気の回復基調が継続。
海外経済は、中国の成長減速及び米国の財政問題があるものの、緩やかに回復。

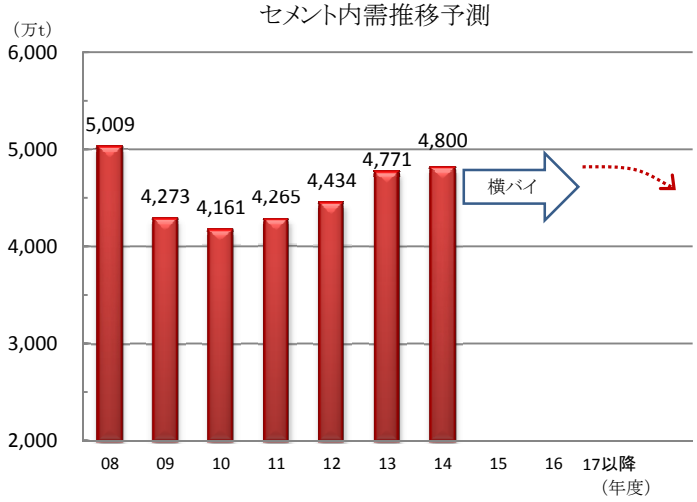
国内セメント需要
人材不足や資材高騰などリスク要因はあるものの、復興事業の本格化や東京オリンピック需要などにより、当面は高い水準で推移する。
ただし、以降は、減少が見込まれる。

セメント周辺事業
時代のニーズや地域によって、セメント事業の周辺には更に成長する市場が存在する。

補修事業…老朽化した社会インフラの維持補修は不可避

海外セメント事業…東南アジア地域では、引き続きセメント需要の増加が見込まれる

セメント内需推移予測



2）基本方針

①セメント国内需要が高水準で推移する中で、グループ力の結集により、収益の極大化をめざす
- ・セメント製造会社の社会的責務としての安定供給
- ・国内セメント需要に呼応した供給体制の構築
- ・省エネルギーの推進等によるコスト低減

②国内需要減少時においても「全社的な安定収益構造を確立する」ために、成長分野の拡充を積極的に進める
- ・成長市場である補修事業の拡充
- ・海外セメント事業における早急な基盤確立
- ・新規事業における更なる選択と集中による収益拡大

3）事業戦略

①国内セメント事業の競争力強化
現環境下での収益の極大化とともに、将来的に競争力のある生産・供給体制を構築する

＜収益の極大化＞
- ・高水準での内需に対する安定生産・供給体制の確保
  - ⇒ 生産能力、輸送能力 および貯蔵能力の増強
  - ⇒ 海運会社再編による効率輸送
- ・設備の健康度維持向上

＜競争力のある生産・供給体制の構築＞
- ・特殊品、固化材を含めた供給体制の見直し検討
- ・ コスト競争力の追求
  - ⇒ 省エネルギーの推進（AQC改造）
  - ⇒ 廃棄物の海送受入れ拡充（震災廃棄物減のリカバー・拡大）

＜適正価格の確保＞

②成長事業の拡充と展開
成長が見込まれる補修事業の拡充
東南アジアにおける新たな事業展開により、海外におけるセメント事業の基盤を確立する

＜補修事業＞
設備増強による補修市場の成長以上の事業拡充
重点分野（上下水道・橋梁・建築耐震・港湾）への特化
- ⇒ 関係会社との連携による営業強化および材工受注拡大
- ⇒ 首都高など東京オリンピック需要に特化したチームによる官民需要の取込み

＜新規海外セメント事業＞
経済成長が継続し、社会的インフラ等への投資が見込まれる東南アジアへの進出検討
- ⇒ 技術力を背景に現地資本と協業した新たな事業の早急な立ち上げ

③新規事業の安定的収益確保
　各事業における成長市場を見極め、ターゲットを絞った経営資源の投入により収益拡大をめざす

＜新規事業（光電子事業・新材料事業・電池材料事業）＞

⇒ 光電子事業　　LN変調器事業における更なる量産体制確立とグローバルな販路拡大
⇒ 新材料事業　　半導体装置製造部品の市場成長の見極めと生産体制のキャッチアップ
⇒ 電池材料事業　車載向け電池材料への展開、営業強化

4）設備投資

事業戦略に従い、必要なものには積極的投資を行っていく

①国内セメント事業
- ・計画的維持更新
- ・合理化投資（リサイクル関連、高効率化AQC）
- ・海上輸送力増強　　等

②成長事業
- ・補修材料の製造設備増強

③新規事業
- ・成長分野での増産対応
  LN変調器、半導体製造部品

設備投資額・償却費　（単位：億円）

	14～16年度
設備投資額	530
減価償却費	530

目的別設備投資額　（単位：億円）

	14～16年度
維持更新(セメント部門)	250
合理化(省エネ・リサイクル拡大等)	50
物流(SS・新造船)等	60
非セメント(生産能力増強)等	80
その他	90
補修費（セメント部門）	160

5）財務戦略

収益拡大により余剰となった資金は、海外セメント事業など新たな事業の展開に充当する

連結キャッシュフロー　（単位：億円）

	14～16年度
営業キャッシュフロー	780
投資キャッシュフロー	▲ 626
営業+投資キャッシュフロー　FCF	154

6）目標値

前提条件（14～16年度）	
セメント内需	4,800万t
為替レート	105円/＄
石炭価格	100＄/t
原油価格	105＄/bbl

売上高（連結）　（単位：億円）

	13年度 実績	14年度 予想	16年度 目標値	対13年度 増減
セメント	1,832	1,848	**1,918**	86
鉱産品	129	131	**139**	10
建材	205	186	**205**	0
光電子	65	67	**80**	15
新材料	49	51	**65**	16
その他	71	77	**93**	22
非セメント	519	512	**582**	63
合　計	2,351	2,360	**2,500**	149

損益（連結）

セメント	166	170	**190**	24
鉱産品	13	18	**22**	9
建材	18	10	**14**	▲ 4
光電子	11	12	**13**	2
新材料	7	10	**12**	5
その他	1	1	**9**	8
非セメント	49	50	**70**	21
営業利益	215	220	**260**	45
経常利益	224	220	**260**	36
当期純利益	133	121	**146**	13

貸借対照表　（単位：億円）

	14/3	15/3予想	17/3計画値
現金および預金	321	198	**158**
有形固定資産	1,598	1,613	**1,593**
投資有価証券	519	519	**519**
その他資産	815	856	**934**
資産　計	3,253	3,186	**3,204**
有利子負債	982	838	**644**
その他の負債	724	706	**678**
負債	1,706	1,544	**1,322**
純資産	1,548	1,642	**1,882**
負債・純資産　計	3,254	3,186	**3,204**

経営指標

	13年度 実績	14年度 予想	16年度 目標値
営業+投資ｷｬｯｼｭﾌﾛｰ　FCF(億円)	146	41	**72**
総資産経常利益率　ROA(%)	7.0	6.8	**8.1**
有利子負債／純資産　DEﾚｼｵ(%)	63	51	**34**